

## 性的マイノリティ分かち合いの会運営補助事業

(実施期間) 平成 26 年度～

(基金事業メニュー) 強化モデル事業

(実施経費) 平成 26 年度 200 千円  
( 200 千円 )

(実施主体) 神奈川県横須賀市  
性的マイノリティ支援団体

### 【事業の背景・必要性・目的】

性的マイノリティである、性同一性障害者、同性愛者・両性愛者、性別の判断が難しい性分化疾患などの方は、20 人に 1 人の割合でいると言われている。日常生活では性別役割、異性愛が前提であることを求められ、様々な場面で葛藤を抱えているが、少数者であるために周囲になかなか理解してもらえず、周囲への違和感と孤立感を強めてしまうこともある。最近の研究からも性的マイノリティの方は自殺のリスクが約 6 倍高く（注 1）、自殺ハイリスク者であることがわかっている。

自殺総合対策大綱にも、性的マイノリティへの対策の必要性について明記されている。横須賀市では平成 25 年度から、人権・保健衛生・児童福祉・教育部局の関係課長が出席する「性的マイノリティ関係課長会議」を庁内に設置し、情報交換・対応方法等の検討を行っている。当時、市内には性的マイノリティの交流ができる場はなく、「当事者同士の情報交換の場づくりの支援」を施策体系のひとつにあげ、26 年度より性的マイノリティの孤立の防止を目的として、情報交換できる場を市内で開催できるよう「性的マイノリティ分かち合いの会補助事業」を開始した。

注 1：厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業 ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート 2 より

### 【地域の特徴・自殺者数の動向】

横須賀市の人口は平成 27 年 4 月 1 日現在 404,423 人（男 201,223 人、女 203,200 人）であり、位置は、神奈川県南東、三浦半島の中央部にあり、東は東京湾、西は相模湾に面している。三浦半島の周囲の海には、暖流黒潮が流れているため、冬は暖かく、夏は涼しく、気温の高低が比較的少ない、過ごしやすい土地である。

平成 25 年中の人口 10 万人に対する横須賀市の自殺率は、18.3 であり、25 年中の自殺者数は男性 56 人、女性が 19 人で合計 75 人であった。男性の自殺者数は女性の約 2.9 倍となっている。自殺数を年代別で見ると、男性は 50 代が最も多く、次いで 40 代と 70 代が同数が多い。女性は、50 代が最も多く、次いで 40 代、80 代となっている。自殺の原因に性的マイノリティであることが関係しているかどうかについては、確認する手段がないため不明である。

### 【事業目標 事業内容】

平成 26 年度は 6 回開催。

当日はファシリテーターの進行による、1 回 2 時間のグループミーティング。始めは簡単なアイスブレイクと自己紹介をし、その後「家族」「仕事」「カミングアウト」など、その都度テーマを決めて、意見交換や普段言えない気持ちや想いを話している。終了時にはアンケートを行い、基本属性（年齢、セクシュアリティ、居住地）やイベントの参加理由・満足度などを確認している。

### 【事業実施にあたっての運営体制】

チラシの作成や申込の受付、当日の運営等事業の実施は性的マイノリティ支援の実績がある民間団体が行っている。横須賀市は民間団体への補助金の支出、市報や市のツイッターへの掲載等の広報支援などを行う。

### 【事業の工夫点】

- ・隣接市に性的マイノリティの交流会があるが、交通費などの問題で隣接市に参加しに行けない 10 代、20 代の若年層を対象とした。
- ・「自分が性的マイノリティである」とはっきり認識がないことも多いため、「10 代、20 代の、同性が好きの人、性別に違和感がある人の交流会」と表現している。
- ・周囲へカミングアウトしていない方も多く、プライバシーに配慮した。参加にあたっては匿名制とし、会場についても公表せず、申込した人にだけ知らせる方式をとっている。

### 【事業成果、今後の課題、その他特筆すべき点】

平成 26 年度は全 6 回実施し、延べ 35 名の参加者がいた。匿名での参加であり、対象者は市民に限定していないため、参加者のうち横須賀市民は 2 割である。

性に戸惑いがあってもなかなか周囲に言えず、また学校生活で制服など男女の区別をすることが多い学齢期に、学校を通して本事業の周知が行き渡ることを検討していたが、保護者に性的マイノリティであることを伝えていないことが殆どであるため、保護者の了解を得ずに未成年である児童・生徒に参加を勧めることについての問題がある。そのため、学校長や教職員には事業を周知しているが、児童・生徒への学校経由で一律に周知することは難しい。

参加者へのアンケートでは、参加した感想として皆「満足」と回答している。また、参加し理解してくれる人と出会えたことから、自己肯定感があがったり、「今日来て、自分は生きていていいんだと感じた」という振返りもあった。

参加者からは、「自治体の補助金事業であるため参加した」という意見も複数あがっており、自治体が関わっていることが当事者への安心感につながっていることがうかがえた。

(問合せ先) 神奈川県横須賀市保健所健康づくり課こころの健康係

TEL: 046-822-4336

E-mail: seishin-hchp@city.yokosuka.kanagawa.jp

URL: <http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/3130/katabami/index.html>